

日本伝熱学会関西支部 第32期定時総会・特別講演会 第33期第1回講演討論会のお知らせ

下記の要領にて対面で開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております

日 時：2026年4月28日（火）13:00～17:40

会 場：関西大学千里山キャンパス第4学舎3号館2階 R3202

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

https://www.kansai-u.ac.jp/nenshi/campus_map/area/area04.html

（リンク先の建物4-3の2階）

13:00～13:30 関西支部第32期定時総会

13:35～13:40 特別講演会／講演討論会 開会挨拶

13:40～14:40 特別講演会

講 師：小宮山 正治 氏（元 岐阜大学工学部 教授）

題 目：燃焼の世界をレーザーで可視化

概 要：レーザー可視化計測を燃焼場に応用し、温度・濃度場の高精度測定を進めてきた。本講演では、レーリ―散乱による温度計測、レーザー誘起蛍光による濃度計測、管内流速の測定手法を紹介する。さらに、火炎位置の安定化や超音速干渉場への応用など、最近の展開についても述べる。

14:40～14:50 休 憩

14:50～16:20 第33期第1回講演討論会

14:50～15:35 出島 一仁 氏（滋賀県立大学）

題 目：MEMS センサを用いた燃焼伝熱機構の解明と制御へ向けた取り組み

概 要：種々の燃焼器において火炎と壁面間の干渉は重要な現象である。しかし、壁面極近傍（数十～数百マイクロメートル程度）で高速（数百マイクロ～数ミリ秒程度）に生じる火炎・壁面間干渉を詳細に捉えることは容易ではない。そこで本研究では、優れた分解能を有するMEMS センサを駆使し、特に伝熱の観点からメカニズム解明と制御へ向けた取り組みを行っている。本講演では、これまでの取り組みと得られた成果について紹介する。

15:35~16:20 福留 功二 氏 (立命館大学)

題 目：粗大過冷却液滴による航空機着氷の形状予測手法の開発

概 要：雲などに含まれる過冷却液滴が航空機表面に衝突すると過冷却状態が解除されて着氷が生じる。この着氷は、翼形状の変化や流路閉塞を引き起こし、航空機の巡行性能や安全性を低下させる要因となる。液滴径が 40 μm を超える粗大過冷却液滴では、衝突時のスプラッシュなどが重畳し、着用形状の予測が一層困難となる。本講演では、航空機における粗大液滴着氷を対象として、格子法と粒子法を用いた着氷形状予測手法について紹介する。

16:20~16:30 休 憩

16:30~17:30 特別企画 (パネルディスカッション)

テーマ：古手の会~伝熱学会関西支部の活性化を無責任に考える~

パネリスト：井上 健司 氏、一法師 茂俊 氏、田坂 誠均 氏、木戸 長生 氏

モデレータ：梅川 尚嗣 氏

概 要：元大阪大学基礎工学部の木本教授が企業の若手を集めて開始した通称"若手の会"は、その後本部直轄の研究会として正式名称を変えながら 30 年以上にわたって継続してきている。本会は、産官学の特に若手の交流を密にする成功例として他学会含めて注目されてきているうえ、本会にかかわった方が、その後本会の本部役員や関連学会で中心的役割を果たし、学会活動の活性化に大きく寄与されてきたのは周知の事実である。しかし現在は人口の減少や企業内の体制変化もあり、企業の学会活動への参画度合いが弱まりつつあるように感じる。今回は、初期の中心メンバーが定年前後になってきたこともあり、無責任に今後の学科活動の活性化を目指してパネルディスカッションを行う。

17:30~17:40 写真撮影・閉会挨拶

18:00~ 意見交換会

会 場：関西大学レストランチルココ

(<https://www.kandai.ne.jp/map/index.html#map01>)

会 費：5,000円程度(税込)